

月

夜

喰

与  
カ  
ケ  
テ







はあッ

はッ

はあ

はッ

はッ





はやく

はやく

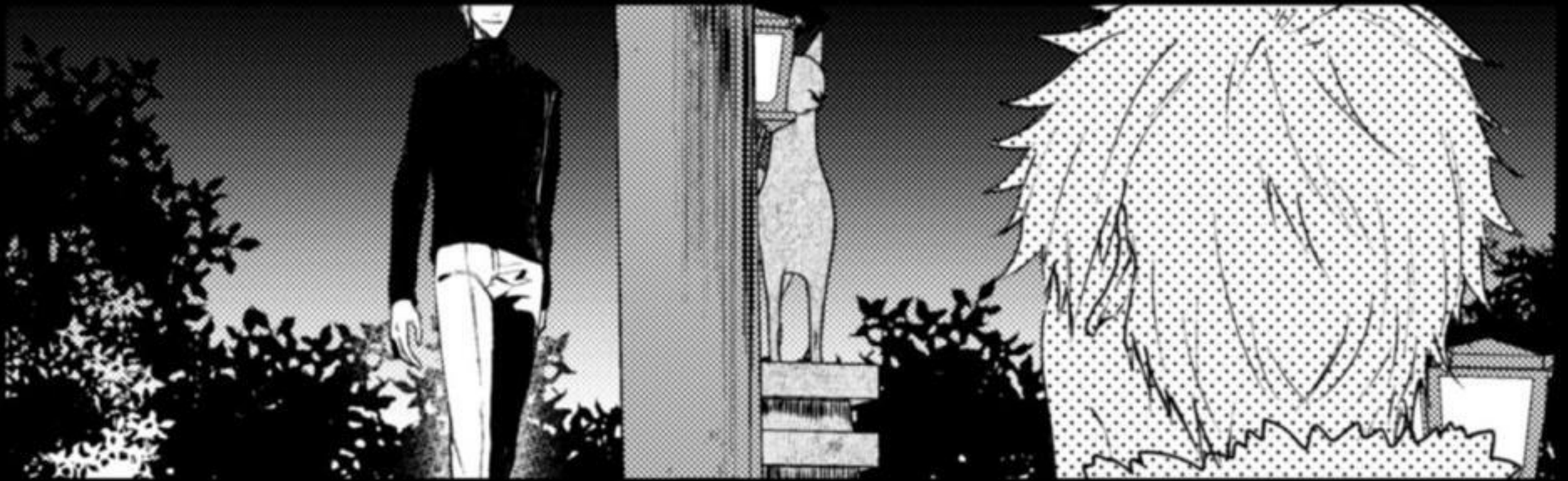
逃げねーと



——水色？  
ケイゴ？

どこ行った  
んだよ…

こないな所に人間が迷いこむなんて珍しいなあ



キミ迷子？  
よかったら僕が  
案内してあげるわ

こっちや  
ほらおいで









逃げるなんて  
酷い子や



久しぶりの  
ごちそうやのに

……  
ッ!!









今度は逃げたら  
あかんよ？



グイグイグイ♡

ニャーッ。







アイツか…!!







そろそろ…か









雨……？

俺……狐のバケモンに  
襲われたはずじゃ……？

あれは……  
夢だったのか？

助かった……  
のか……？

……つてか  
ここどこだよ……

目は覚めたかい？  
人間の少年





危ないところ  
だったね

まったく  
あの狐には  
困ったものだ

ザッ  
ア

おかげで  
迎えが遅く  
なっちゃった

誰だ…人間…  
じゃねえ…!?

まさかいつも  
あの狐の…!?

ピュッ

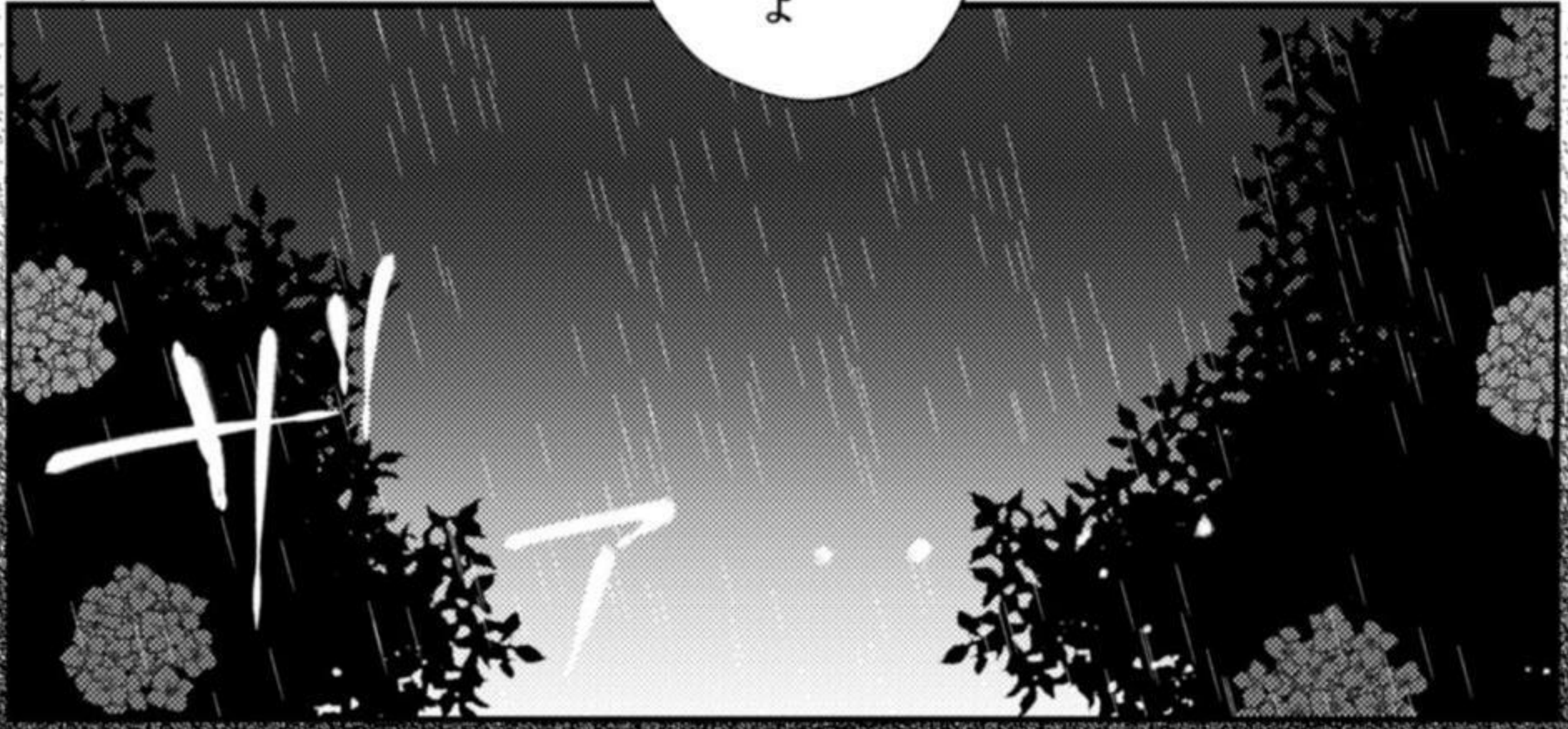
ピュッ





…大丈夫  
私は君を  
殺したりなんて  
しないよ

私は藍染惣右介  
…君は私が護るよ







どうやら傷は  
そこまで酷くなかった  
ようで良かった

あの…

手当て  
してもらった



あの子には  
いつも  
手を焼か  
されるんだ…

あの狐…  
市丸には私から  
よく聞かせておいて  
おこう

…ありがとな  
ケガのことも…  
さつきのことも…

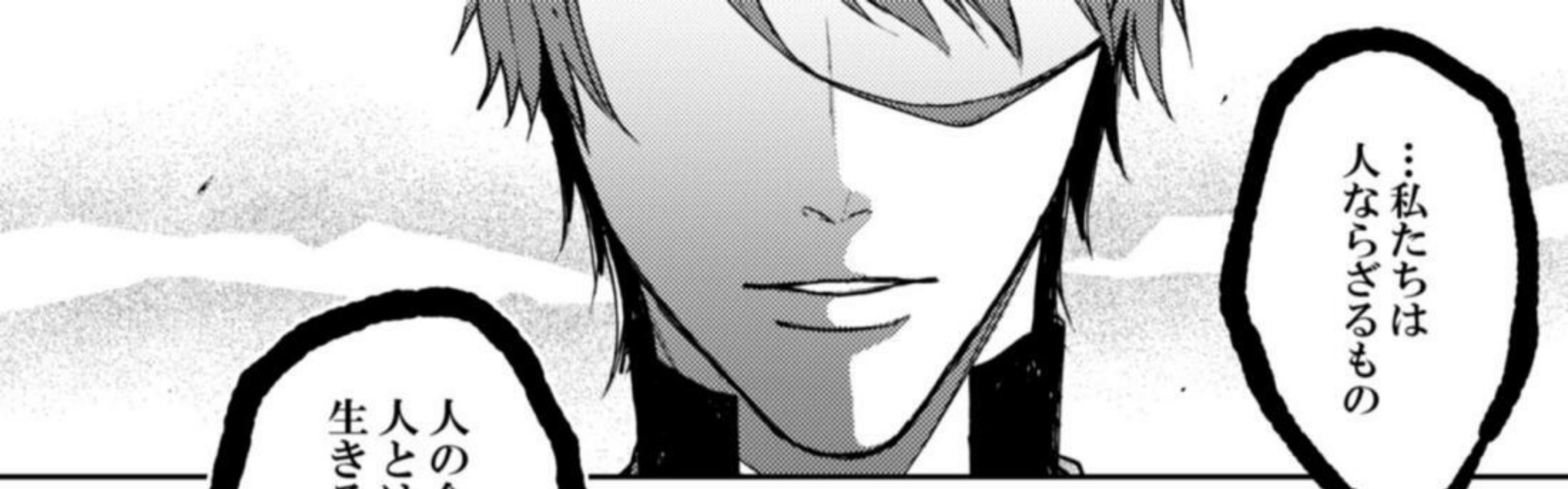
いいさ…それに  
私の土地で  
勝手されても困る



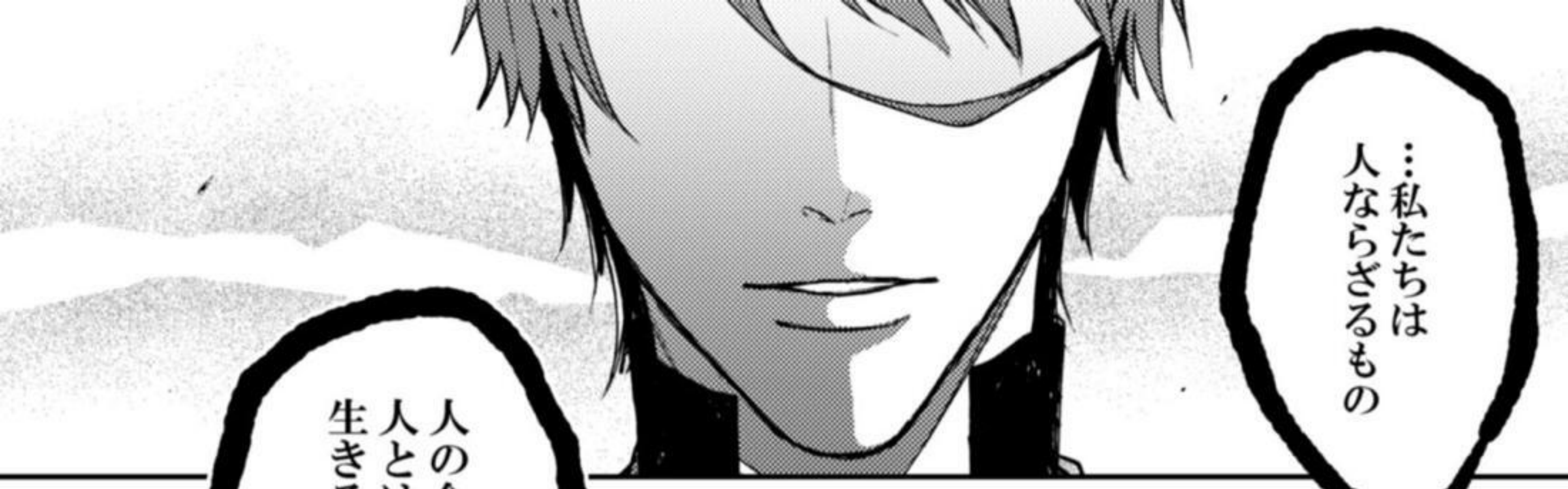
…なあ  
教えてくれ

此処は何処で、  
あんた達は  
一体…？





…私たちは  
人ならざるもの



人の命を糧とし  
人とは違う次元に  
生きる存在



古来から人は  
私たちを「あやかし」と  
呼んでいる





逃げるなんて酷い子や  
久しぶりのごちそうやのに



妖は人の生命力…  
我々は妖力と呼ぶが…

血肉を喰らい  
力を得ている



あやかし…



私たちも  
不死ではない  
仕方のない事だ

ふざけんな!!  
そんな事あつて  
たまるか!!

圭吾と水色…  
俺の連れもここで  
迷ってるかも  
しれねーんだよ!

まよ  
し

早くアイツら  
探しに  
行かねーと…!!



何言っで…



…それは心配に  
及ばないさ

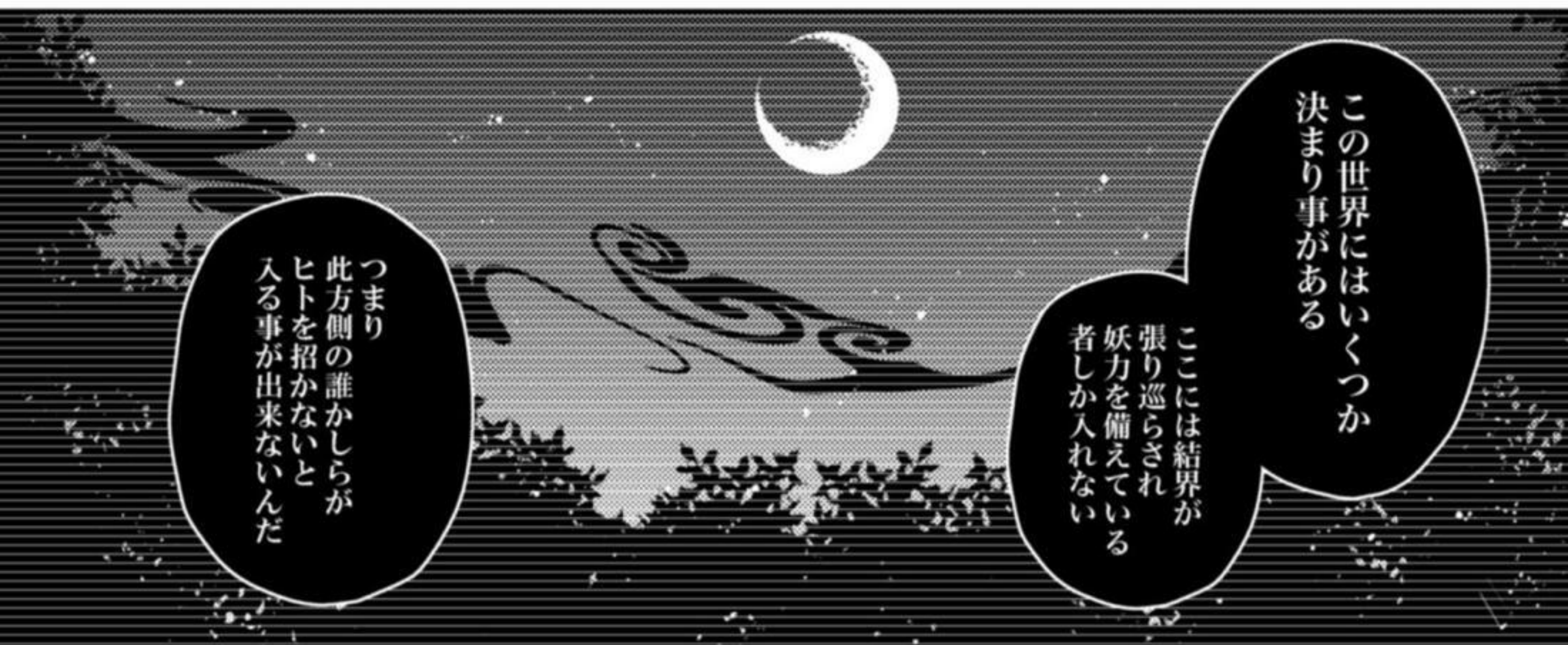




…黒崎一護  
知っているか？



此処にはキミしか  
入ることは出来ない



この世界にはいくつか  
決まり事がある

ここには結界が  
張り巡らされ  
妖力を備えている  
者しか入れない

つまり  
此方側の誰かしらが  
ヒトを招かないと  
入る事が出来ないんだ



…解らないか？

君が此処にいるのは  
必然だと言って  
いるんだ

友人と離れる事も  
襲われる事も

まだ名前

教えていないのに



おかしい

…どう言う意味だよ





君をこちらに  
招いたのは私だよ



君が友達思いの  
良い子で本当に  
助かった

嘘だ

現世でキミを  
見つけた時から  
どうやって攫おうか  
悩んだよ

こいつは何を  
言ってるんだ

体が  
うまく動かない

嫌だ  
聞きたくない

此処へ導く為に  
多少の手間は  
かかったが：

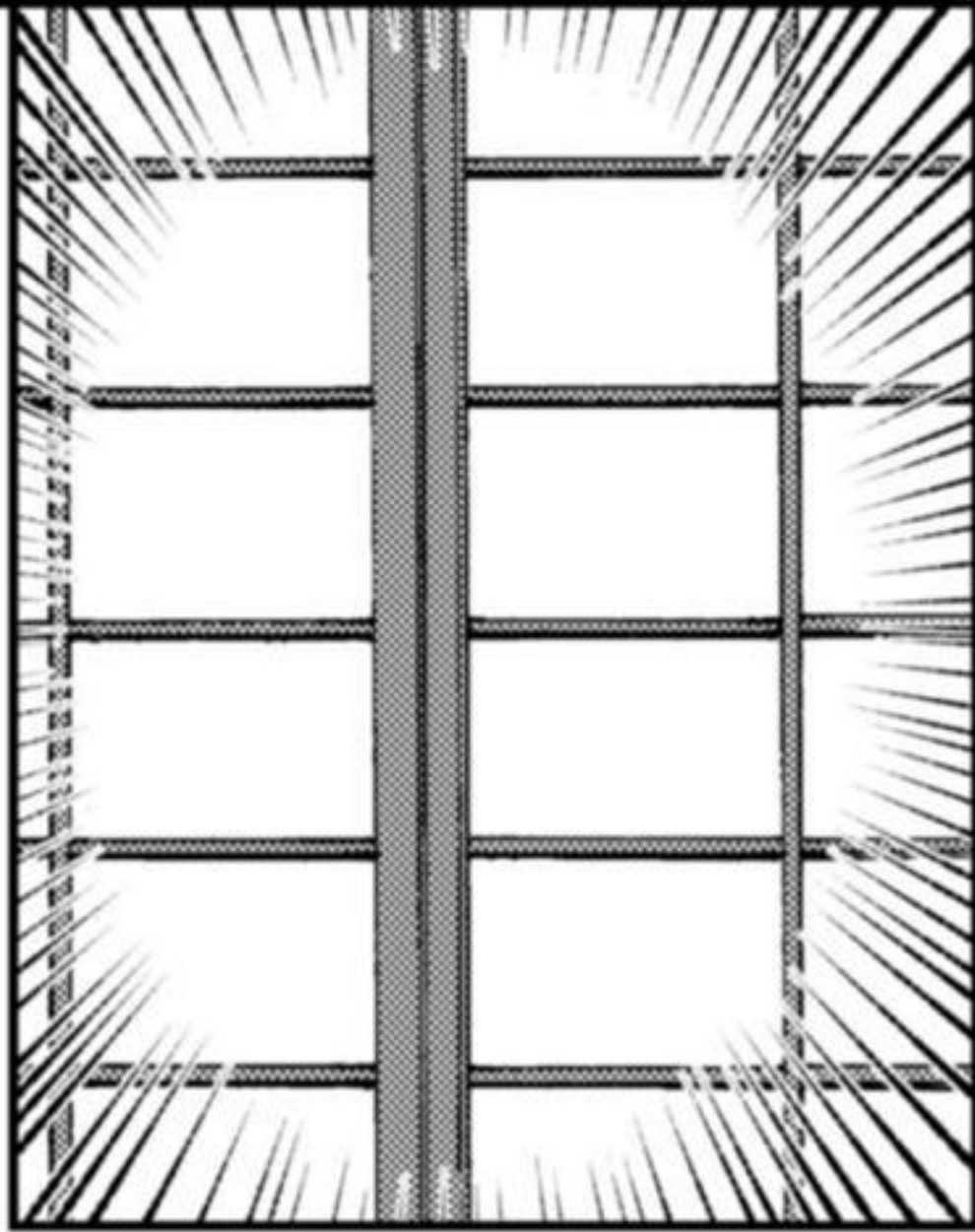
はやく





おかげで  
キミを喰らうことが  
出来る

はやく逃げないと殺される…!!!



!?  
開かな…



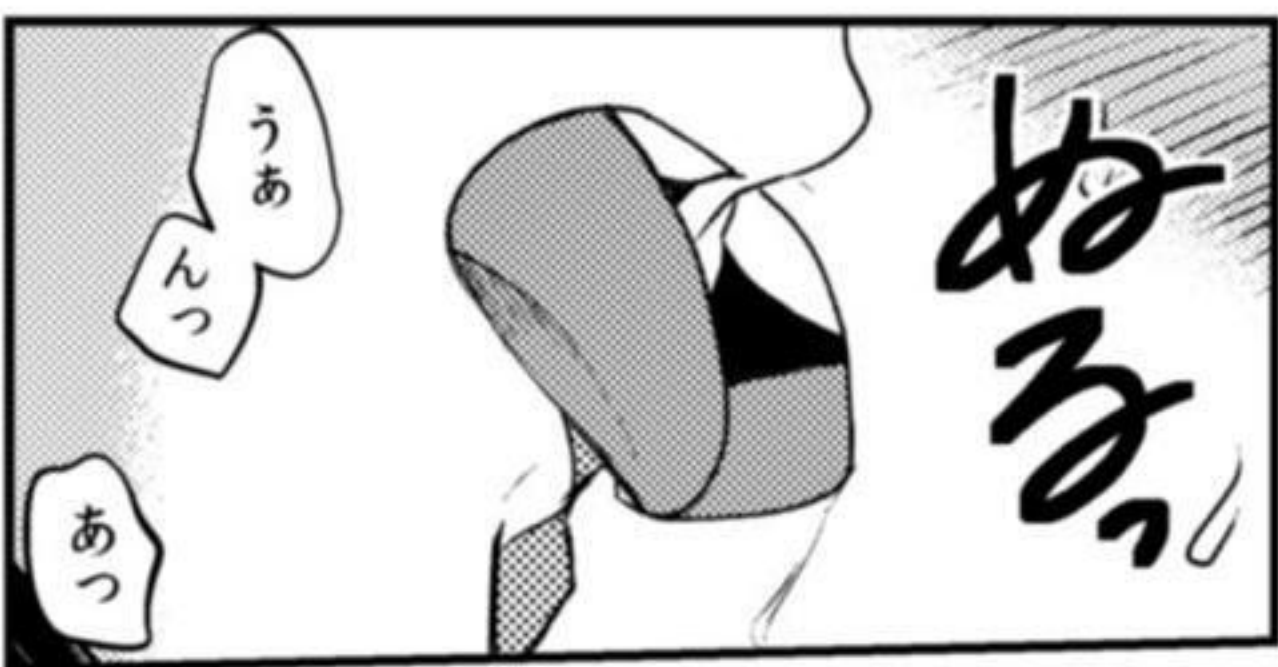
何処へ行く  
つもりだ？



こんなにも容易く  
他人を信用するなんて



まったく



ぬるる

うあ  
んっ

あっ



目眩がするほど  
甘いな

チーン



はあっ  
あ…





うッ!!

ムッ  
サッ



やはり君は特別だ  
黒崎三護



：おや？  
私の妖力に  
当てられたか？

所詮は  
人の子供か

：だがこれ程  
甘美な人間は  
ハジメテだよ

は...

く  
っ  
？

は...



君の血肉を  
喰らうのは  
容易い事だが...



君をただ  
殺すだけなど  
私は満足できない





そう  
怯える事はない

君の体を  
味わい尽くす  
だけだ...

カク  
カク

いやだ...!

はやく  
逃げねえと

ヤア

カク

でも

する

ヤア





身体が動かない……!!

キーン

キーン



ひんあひん!

ここを弄られるのが好きなのかい?

キーン

キーン

キーン



君のはきつと素晴らしく美味だろうね……

ひんあひん



ならそのうち乳が出るように調教してあげよう

あー

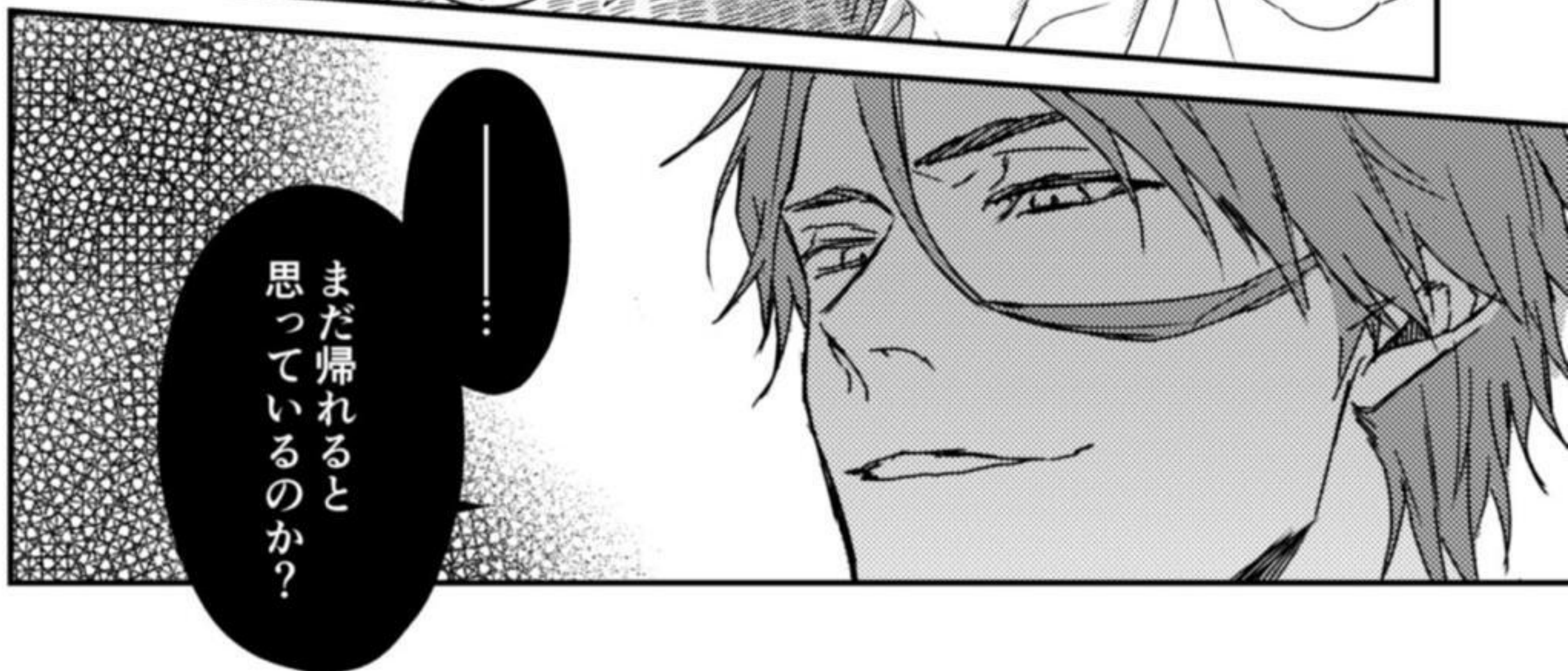
あー

あー





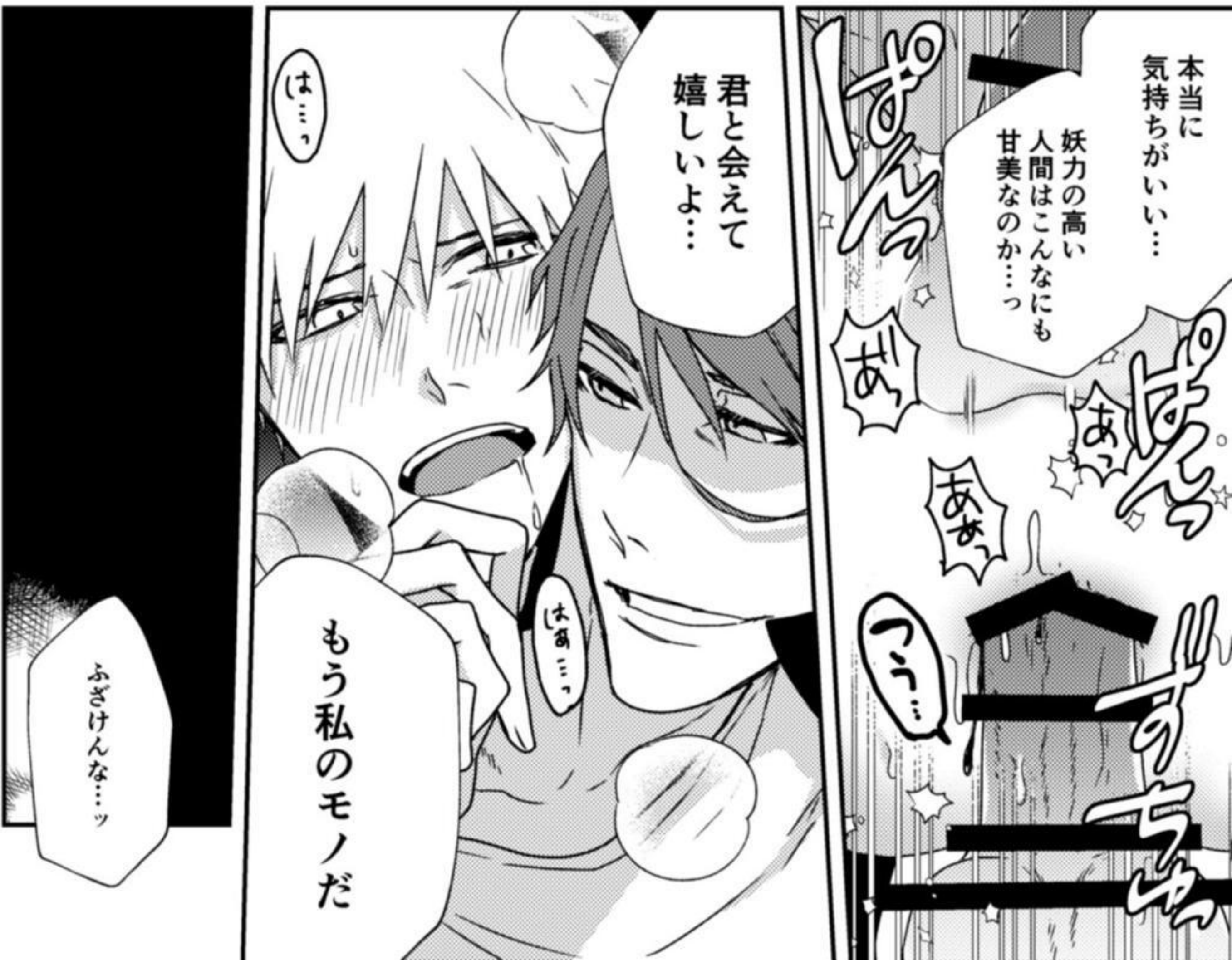










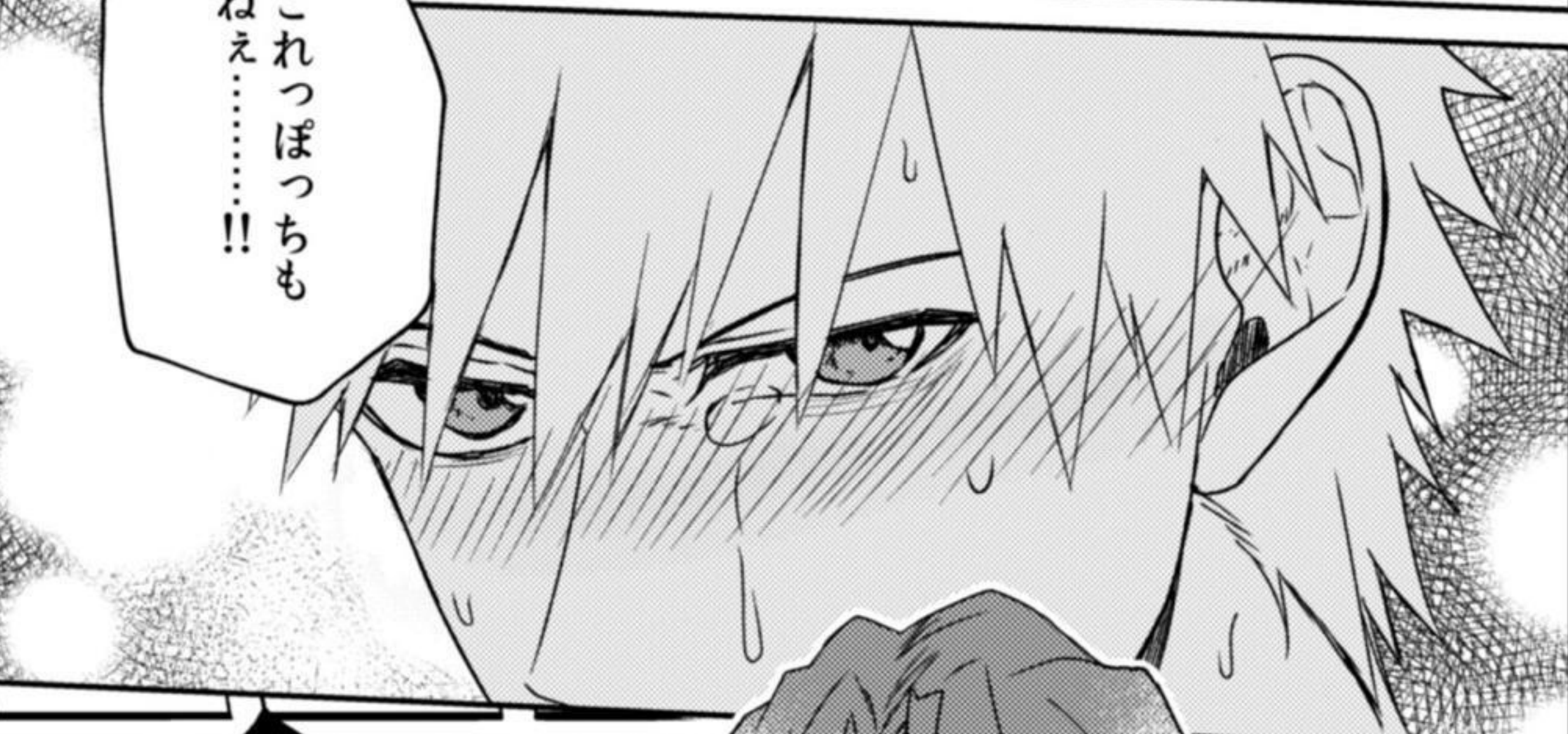






俺は…絶対…ッ

あんたなんか  
喰われるつもりも  
生きるつもりも…ッ



これっぽっちも  
ねえ………!!



あんたはずっと  
ひとりだ………!!



随分と

知ったような  
口を利くね

余程自身の  
立場が見えて  
いないようだ

…まあ  
それでもいい

ならば君の  
血も肉も骨も皮も  
すべて愛してあげよう

そうすれば  
君も私の事しか  
考えられなく  
なるだろう？

大丈夫  
時間なら気が  
狂しくなる程ある





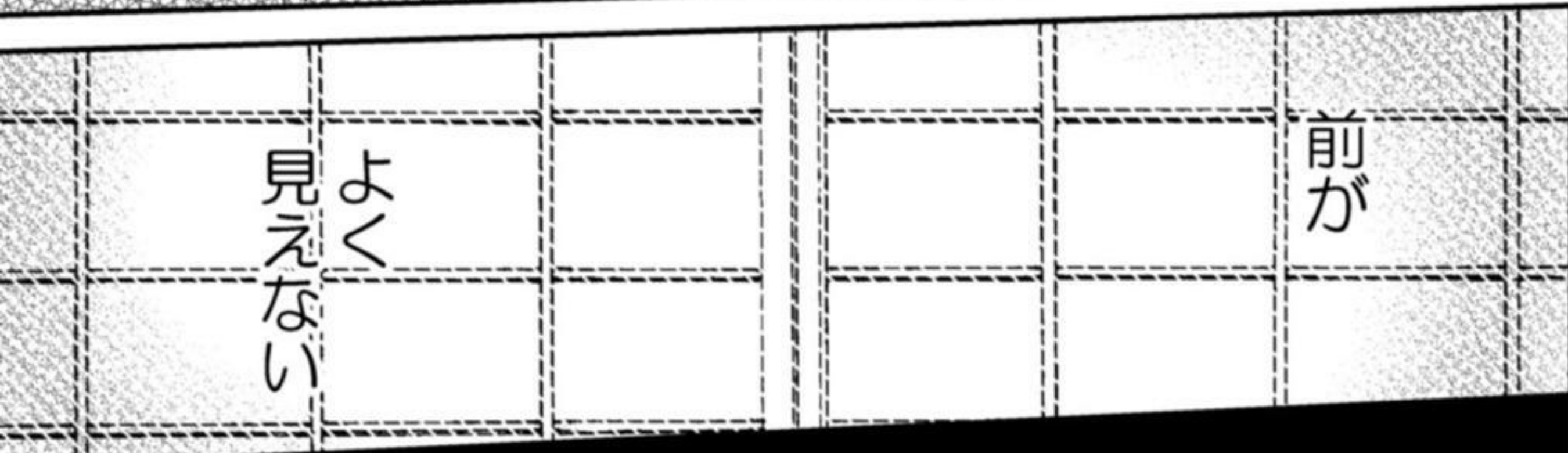
あやかし  
この世界の夜は  
長いからね…



あれ…

駄目だ…  
はやく  
逃げないと…

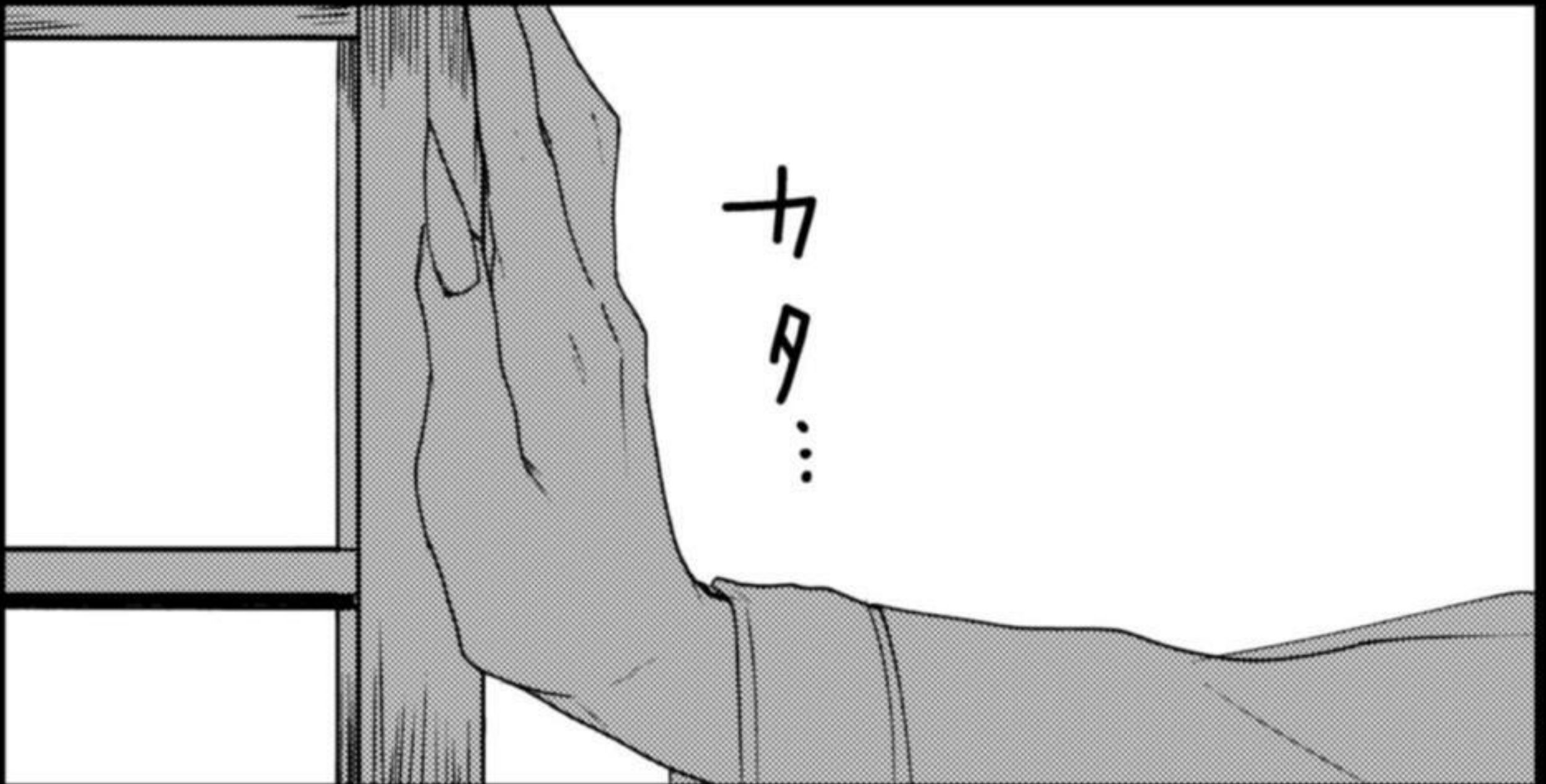
でも



前が

よく  
見えない





カタ...

随分と  
遅かったじゃないか





やっぱり  
ここにおったんや



：相変わらず  
意地が悪いお人やわ

こんな面倒な事  
せんでもよかったんと  
ちやいますの？





それじゃ  
つまらないだろう？

